

婦人学

第拾壹卷

第五號

フレールベール會

第拾貳卷第五號目次

○玩具研究に就つて	中川謙二郎
○兒童の辨當	倉橋惣三
○幼稚園問題(承前)	佐々木吉三郎
○社會と兒童(承前)	小林照朗
○櫻草とげんげ	保井コノ
○思ひ出のまゝ	後藤りん
○保育の實際	
△幼兒自作の唱歌	學習院女學部
△子ども遊戯	坂本小學校附屬幼稚園
△弊園の特色	静岡幼稚園
○和氣藹々	

フレイトベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレイトベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タルラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一月月金拾錢ヲ納出スベシ
- 第五條 合間名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
  - 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽會務ノ報告 幹事ノ選舉等ヲナス
  - 一 常會 毎月二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實験等ヲナス
  - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
  - 一 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第七條 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 第八條 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 一 會長 會務ヲ總理ス
  - 一 幹事 若干人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 一 評議員 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 一 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
- 第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更改スルコトヲ得ス

購讀の申込

(編輯口座東京) 一七二六番

本誌を購讀なされたき方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ月分なまゝとめて振替貯金へ御携込下されば直に雜誌を發送致します。

◎一册郵税共金拾一錢  
 ◎六册前金郵税共六拾錢  
 ◎拾二册同金壹圓貳拾錢  
 ◎郵券代用一割増



香を



婦人友誼

第十一卷第五號

玩具研究に就いて

會長 中川謙二郎

▲製作材料に關する研究は如何

玩具は何事の辨へもなき幼児の玩ぶ可きものなれば、之を製作す可き材料は苟も幼児の身體に危害を與ふるの恐れなきものでなければならぬ。其昔、我輩は玩具に用ゐてある色素に就いて調べたことがある。確か今より二十年ばかり前の事であるが、驚く可し、多くの色素の中には砒素を含有して居るものがあつた。其後世の中も進んで來て居るし、警視廳其他の取締も相當にあることであるから、今日では恐らく右様の有害はあるまいが、併し此點に就いてはまだ充分に注意せられて居るとは見えない様である。是等に關する研究は果して何の位まで進んで居るものであらうか、又賣樂店に於ける藥名と藥局方に於ける名稱とが一致して居ないものが間々ある様であるが是等も誤つて有害物を用ゐる

様な過失の原因とならんとも限らぬ。又塗料の中には色素の外にニス、エナメル、ペンキ等のものがある、是等も中々注意しないと有害なものがあるから、是又實際家の一考を煩はさなければならぬ。

次に金屬玩具は其古びたる後の錆に就いては大に使用者たる父兄の注意を要するものがある。彼鉛やハンダの錆などは余程注意しないとその毒に目されることがある。其他銅の錆も頗る危険であるから、注意しなければならぬ。

以上は化學的の危害に屬するものであるけれども、危害は尙物理的の方面にも澤山ある。金屬玩具の先端や縁邊などは云ふ迄もないが、木や竹を材料にしたものでも、こわれたり何かしたときには余程注意しなければならぬ。製作材料の研究としては尙如何なる材料を如何様に使用す可きか其材料の長所特長を如何に利用す可きかは製作家の大に研究を要することであらう。

▲玩具の種類と教育的價值

玩具には動くものと動かぬものとある。靜なるものは如何なる場合に効あるか、又動くものには如何なる教育的價值ありや、是等に關する研究は果して解決を告げたるものなるか、我輩は何ちらかと云へば靜かなる玩具の價值を疑ふものである。

少くも其教育的價值は動的玩具よりも少なき様思はるゝのである。玩具の種類の中には物理上の原則を應用したる玩具がある、そして物理學的實驗を示す様なものがある。是等の玩具が子供に喜ばれ樂しまるゝとしたならば大に獎勵す可き筋のものであると思ふ。子供は是等の玩具を樂んで居る中に無意識の中に色々の物理的現象に接觸するこゝとが出来る。是は誠に善い玩具である。

▲玩具の代價と教育

近來、玩具は大分高價のものが、賣られる様であるが、是は寔にいはれないことで、詰らぬことであると思ふ。元來玩具と云ふものは、同一の

ものが、何時迄も、子供の生ひ立つと共に、用ゐらる可き筈のものではないので、子供は或時期に於て或玩具を要求するとしても其時期を過ぐれば又更に他の玩具を要求するものである。即ち同一の玩具は或期間丈子供の教育上必要なので、數日、數月を経た時には、最早他の異りたる玩具を要するものである。斯様に玩具夫れ自身の壽命と云ふものは短いものであるから、玩具は後から後からと交代して先のは適當の時期を過ぐれば捨てる可きものである。此捨てらる可き筈の玩具に高い高い代價を拂ふと云ふことは單に贅澤の爲めなら、いざ知らず、平民の家庭には不相應なものである。玩具製造家は此點に猛省して欲しいものである。殊に最も詰らなく感ずるのは、彼價高い玩具を硝子箱に入れて、單に眺めるだけの外子供の手や指を觸れさせない様にした玩具である。是で果して教育的玩具と云ふことが出來様か、勿論、破れ様がやぶけ様が、何でも安價なれ

ば夫れて宜しいと云ふのではないが、去りとして、元來が玩弄してこそ教育的効果のある可き筈のものを、價の高價なる爲めに、之を硝子箱に入れて大切にしなければならぬと云ふことでは切角の玩具の効能を失つて仕舞つたものと云はなければならぬ。

▲玩具と年齢との關係  
 兩親の慈愛に因つて幼兒に與へらるゝ玩具は自然に變化があるけれども、併し理屈の上に多少の標準がありそうなものである。又男女の性別に就いても何う云ふ注意が必要であるとかないとか、之を確定して欲しいものである。人形は女のものの、獨樂は男のものと極まつて居る様であるが、是が果して嚴格に守る可きものであるか、是等に就いての研究は如何、聞きたいものである。そして世の一般の父兄に之を知らしめたならば蓋し其効果や著しいものであらうと思ふ。

▲玩具の色彩

玩具は子供の興味に投ずる必要があるから、従つて種々なる色彩があるのは當然であるが、併て其色彩なるものが、彼自然界に於ける花卉草木、鳥獸虫魚の類を比較して適當なる均衡を保つて居るであらうか、我輩の認むる所では、何うも、多少玩具の色彩が自然界の夫れに比して濃厚に過ぐる嫌がある様に思ふ。是は美的教育上決して輕々に看過す可き筈のものではない様である。

▲玩具の音と教育

玩具の音は又教育上頗る重大なる研究資料でなければならぬ。嬰兒時代に美音を聞かぬ子供は一生を通じて音楽の趣味を解せぬものであると云つた人さへあるから、音の種類と教育との關係を研究し、更に夫れと年齢との關係に就いて調べて適當な時期に適當な音的刺戟を與へて聴覺の練習を計り兼ねて密界の啓蒙に資さなければならぬ。然るに世には無考な人が多くて、生れて數月を経たに過ぎない嬰兒の耳元でブリキ製の極めて高調な

音を發するから／＼を振り立て、子供の神經を殊更に興奮させて居る。幼兒の聴覺と感情とを發達させる上に頗る危険な事と云はねばならぬ。一體から／＼には其材料に因つて種々なる音の種類がある玩具研究者は其音の種類を調べて最も教育的なるものを指定しなければならぬ。世の父兄は差し當り穩かなる調子で快よき刺戟を與ふる様ながら／＼を撰んで愛兒の爲めに與ふ可きである。此の外太鼓、鐵琴、笛等の樂器に至つては尙更に大に研究するの價值があらう、折角、音樂的趣味を養成せんが爲めの玩具を非音樂的、非美術的のものとして仕舞つては何にもならぬことである。

要するに玩具は教育品中教科書や文房具に優るとも劣らぬ重要な教育品であるから、是を研究せんとする人々は何處迄も眞面目に且つ實際的に研究する心掛けがなくてはならぬ。玩具研究を古物骨董の研究と同視して娛樂的に歴史的研究のみをして居つては今日の教育には彼立たぬ。史的研究は決して不必要ではないが、詰る所は現物の研究にあることを忘れてはならぬ。



魚	肉			鶏					一の組 二の組 三の組 本圖計 一分室	
	煮着及焼肴類	鰻類	牛類	鶏肉類	卵	やき卵	煮卵	ゆで卵		オムレツ
鰻節	六六、九、四	六	四七、六、五	六	一九、五、三	三三	五二	三三	六	一の組 二の組 三の組 本圖計 一分室
鰻節	六三、八、七	二	四三、五、八	二	三三	三三	七六	三三	一一	一の組 二の組 三の組 本圖計 一分室
鰻節	四〇、五、一、七、七、七	一	一七、二、一	一	一三	一三	二四	一三	一	一の組 二の組 三の組 本圖計 一分室
鰻節	七六、一、九	六	六〇、〇、八	六	三三	三三	五八	三三	一一	一の組 二の組 三の組 本圖計 一分室

(第二表)副食物

百分率は六月に於ける各其組の辨當全數(一の組七七一、二の組七〇七、三の組七五六、本圖計二一八〇、分室七一)に對する割合を百に對する割合に換算したるものなり。即ち各組の比較及本圖と分室との比較は「總數」の項に於てせず、百分率の項に於てすべきなり。

野菜類其他	煮豆	梅干	竹輪	魚干	魚	貝類	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
六、八、五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四〇、七、〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四六、六、五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一三、九、七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二四、二、〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二



味羅胡茄冰南午揚昆麸百き豆羊紅杏辣乾切味慈奈荷海菊  
羅 茹 豆 合 人 腐 布 根 人 腐 薑 蕪 瓢 干 漬 姑 漬 苔 蓴  
噌 賽 苺 子 蓴 爪 芽 腐 布 根 人 腐 薑 蕪 瓢 干 漬 姑 漬 苔 蓴

一 一 一 三 二 二 一 三 一 二 二 一 二 三

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一

一 一 一 一 一 一 一 九 二 二 二 二 二 二 二 三 三 三 三 三 三 六 六

二 二 一 一 六 四 一 一 二

備考 第一表に同じ。

三葉芹	胡爪のみ	鹿尾菜	蕪	ぜんまい

右の表によつて、二三注意すべき點を挙げて見ると、第一、菓子麩の多いことは實に驚くべきことである。あんぱん、かにぱん、其他いろいろの名がついて居るが、要するに菓子の種類に屬すべきもの、子どもの間食用たるに過ぎぬ。それも綿密に注意する家庭に於ては、間食としても最理想のとは考へて居るものがある。それが五個六個、甚しいのは二個位でもつて、重要な一回の午食に代用せられて居るのである。しかも此の種の多数は附添人なり、甚しいのは幼児自らなりが、登園の途中買つて来るものである。即ち家庭の調理はおろか、檢閲をだに經ざる辨當である。第一の營養の點からの論は假りに別としても、特に此の

第二の點から見て、菓子麵麩辨當は甚だ不賛成である。勿論此の顯象の一面には、幼児が菓子麵麩辨當を好んで、おねだりするといふことは有力な事實でもあり辯解にもなる。併し、それだから菓子麵麩辨當を賛成するといふ譯にはゆかない。表を御覽なさい。此の種の辨當の割合は、保育料の高い本園幼児に比して、無料保育の分室幼児に於て殆んど三倍も多いことになつて居る。幼児の持つて來る辨當を一寸見ても、其の家庭殊に母親の、幼児に對する注意如何が察せられる。(勿論之れを以て、幼児に對する愛育の熱心の多少を直に斷するのではない。生活の種類によつて、心には思つてもその暇のない家も澤山ある。そこで獨逸などで盛に行はれつゝある兒童給食制度、即ち子どものお辨當の世話は、學校なり幼稚園で引き受けるといふ行き届いた方法の必要が起つて來る)。

副食物の表に就ては、各食物の眞の滋養の大小、及び消化の良否等、専門の知識を持たなければ確

な論斷は出來ないのであるが、大體常識から考へて見て、いくつかの點に氣がつく。第一、鶏卵、肉類、魚肉、に於ては其の割合に於て、分室が著しく本園に劣つて居る。それに反して、野菜類は分室の方が本園の約二倍以上になつて居る。鶏卵や肉類のみに滋養があつて、野菜類は滋養がないといふのでは決してない。暮々もそんな議論をするのではないが、斯うまで著しい割合の違ひが出ては何となく考へざるを得ない。それから第二には、魚肉、野菜類其他に於て、常識的に考へて、隨分如何かと思はれるものが少くない。

併し、斯くいつて來れば、如何にも心なく批評のみして居る様になるが、吾等の此の研究の心は必ずしも、そのみではない。此の表が大體に於て示す處、殊に「かはり飯」の一項が示す處は、それらゝの家庭に於て、如何に辨當問題に心を勞して居らるゝかを察するの好資料である。尙々此の研究が進んで、衛生學上からと教育上からと

の協同研究が充分行はれて、成るべく手数のかゝらない方法で、成るべく良き辨當を作る法が教へられたならば、兒童の幸福は勿論、家庭に於ても、どの位幸福であるかと思ふ。

本調査は單に一幼稚園の、且つ僅に一ヶ月間の調査に過ぎぬから、之れを以て一般の論をすることは勿論出来ない。たゞ、此を一つの調査例として、各幼稚園、又は小學校等に於ても、續々同様の調査を試みられんことを希望するのである。其の結果は兒童の食物に關する大きい廣い解決の資料を貢獻し得ると共に、直接保育上の大切な參考になることが甚だ多い。此の調査の材料を供された某幼稚園に於ても、此の調査後既に約一年、今調査して見れば其の頃とは大に趣を異にした、良好の結果を得られることと思ふ。

(附言、此の種の問題に就て、參考となるべきことは、何に限らず御報告を得ば最も幸である。各地方によりても、種々相違せる有益な材料に富まることと信ずる。大方の諸君の吾等と共に御協力御研究を乞ふ。倉橋生)

### 和氣巖々

(フレーザー會第十六回總會)

四月二十二日は、東京の春の悪い癖の嵐も朝から風いで、空には記事文範の文句通り、それこそ一點の曇もない好天氣であつた。午後一時頃から我が多数の會員諸婦が、總會々場の附屬幼稚園へ續々と寄せて來られる。定刻開會。一同の君が代合唱について先づ中川會長の挨拶があり、次に黒田主幹の庶務會計の報告があり、愈々演説に移つた。新らしく歐米の良家庭に就て、可愛らしい、感心なる、可笑しい、とり／＼の子供の話を見て來られたまゝを、目に見えたる様に活き／＼と話される河井道子氏の講話も、兒童の自我觀念の發達といふ六かしい併し重要な問題を、囁んでふくめる様に話さるゝ元長博士の講話も、共に々々有益な多くの教訓を與へられた。此の速記は本誌來號へ掲載の筈、殊に講演の間に、小向井君子氏が特に其の妙手を以てヴァイオリンの一曲を奏せられたのは理趣交々たる感と共に、和氣巖々を添へた。講演後には、別室操操場で、興味多き種々の遊戯唱歌があり。更に席を更めて茶葉の間に懇話會が開かれた。海苔まき、お團子、南京豆の御馳走も、質素な中にいふにいはれぬ親しげな和氣が交る。會を終つたのは六時近くであつた。

此の日市内各幼稚園の出品を一室に陳列して、來會者の觀覽に供したが、有益なる參考となるもの少くなかつた。樂しく有益なる吾等の會よ。鬼が笑ふかも知れないが、來年は尙一層樂しく、尙一層有益な會であらせ度い。終りに特に一言すべきは、此日附屬幼稚園の字式かん氏が、此會へ出席だけの爲に、遠い／＼箱根山の彼方からわざわざ、出京せられたことである。

## 幼稚園に關する諸問題(二)

佐々木吉三郎

### 二、智育

○兒童は、人類性質の縮圖であると云はれて居通り、殆ど、あらゆる心のはたらきが、芽生えを出して居るのでありますから、吾々は、たゞ、それを、障害なく、完全に、發達させることを大切と心得るだけの話であります。成長する處の精神は始終、何等かに従事することが大切なので、働かなければ發達は出來ない。これは云ふまでもない話であります。どうしたら、子供の精神を最よくはたらかせ得るか。大人であれば、むづかしい問題を出しても、工夫を要する事でも、無形な抽象的な事でも、皆よく精神をはたらかす手段となりますが、幼児の精神を最強くひきつけ、盡く興味を感ぜしむるには、どういふやうに、精神をはたらかしめたならよいかといふと、どうしても、

10  
 抽象的のものをさせて、まづ、覺官に訴へる具體的のものを示さねばならぬ。否、單に、具體的な對象を見せたり、聞かせたり、即ち、廣い意味の直感をさせるだけでなく、更に、一步を進めて、なるべく、その事物を取り扱はせて、物に親しましむるといふ事が、一層有効である。そこで、幼児の保育教育を目的とする處では、皆、それらの手細工なり、物をいぢくつて遊ぶ遊戯なり、所謂作業といふものを課するやうになつて居るのは、教育を子供風に工夫した結果で、極めて、大切なことであります。かやうに、教育上、兒童の實地の活動(セルフアモチビチー)を先頭におりものは、フレーベル氏を以て始めとするので、その以前の教育者は、かゝる點には、あまり注意をむけなかつたのであります。かのコメニウス氏などは、よほど、常識に富んだ教育説を立てた人であります。が、あの人なども、覺官、知覺、言語、思考などを注意したに過ぎなかつたのであります。が、フレーベ

ルに至つて、實際のはたらきによつて教育するといふ事を強く認めたので、氏は「爲す事、しかも、自分で爲すこと、自分で作ること、自分で、なにかに従事することによつて、子供は成長するもので、それからして、次第に、直覺を主とする時期、言語を以て説明する時期、思考を練る時期といふやうに進むものである」と云うて居る。(コメニツスなどのやうに、繪本などで學ぶよりは、活動ではじめるがよい。さうすると、一層深き愛情、感動を惹き起して、その製作物は、自己内界のうつしとなる。自然生活、人間生活を餘所事と見ないで、自分の實感的な生活と見るものである」と申して居りますが、つまり、單に、外界から、智識を領收せしむる目的である場合には、覺官的に紹介する、もし、それが、子供等の製作作業に適したものであつたならば、必ず、自己製作に訴へるといふやうにして、分量の多くを食ふよりも、或る事柄に深く、目を以て、耳を以て、情を以て、手

を以て、全心を以て交際せしむるといふ事につとめなければならぬと思ひます。これによつて、幼児が、あんまり、あれもこれもに氣を配るばかりで、きよろ／＼として、神經過敏になる弊を防ぎ得ると同時に、落ちつきのある深い觀察をさせ、勞働を喜び、手の器用なども、同時に發達させることが出来ると思ひます。さうして、具體的、覺官的にやる間に、耳、目、口、鼻等の各種の覺官が、自然に、始終はたらかせられることになるのであります。ところが、よくこれをばきちがへて、覺官練習など、云ふ機械的方法をやつて、子供を受動的に立たすだけにするのは、私の、全然、賛成せぬ所でありませぬ。そんな人工的な事をしなくても、相當の考ある人がやれば、自然に出来るものであると思ふのであります。

要するに、幼稚園が、子供の智識界を開拓するといふ事は、子供の自然の發達階段に應じて、その要求のあるだけ進めるので、あまり、こちらから、

考へ過ぎたあてがひをせぬ方がよい。物の名、言葉の意味、材料、道具の性質、使用法等は、皆、必要に應じて、自然に覚えさせるやうになし、歌などを教へても、なるべく、精撰して、歌の詞などは、度々歌つて居る中に、自然に覚え込むといふやうになし、お伽噺や、いろ／＼の物語をして見ても、直に、それをお話せよとか、個條をあげて見よとかいふやうに、機械的の記憶を強いることなく、たい、やはらかに、ほんやりと、子供の心の中に感じて居る位が、最、程のよいところではないかと思ひます。

### 三、美育、德育

これについては、云ふべきことは澤山ありませうが、私は、此中の五つだけを、こゝに申して見たと思ふのであります。

一、幼稚園は、極、大切な條件として、愛情の流れて居るところでなければならぬと思ひます。幼稚園の保母は、母親の代理であり、愛の權化でな

ければならぬ。これは、保母の第一の資格であると思ひます。學問もあるにこした事はなく、技藝も出味るにこした事はないが、私は、そんな事よりも、その保母なる人の胸の中に、盡きぬ愛の泉があつて、その真心から出た情の美しい花が、目でも讀まれ、手にもあらはれ、幼児等が、その保母の姿を見ると、何とも云へぬ慕はしい、やさしい、なつかしい感じの起るやうにならなければならぬ。これは、もとより、容易の事ではないが、始終、理想として置かなければならぬものであると思ふ。

學校と、家庭との長所、短所を區別する一つは、たしかに、この愛といふ條件である。學校といふものは、大勢の子供を一樣に取り扱ふ點から、やゝもすれば、子供を、ナンバー即ち番號として取扱ふ。下足札を渡すやうに、どなたのはきもので、特別扱ひはしないで、兵隊さんの靴も、奥様の空氣草履も、皆、そこに、すらりと並べるとい

ふやうに、一つ／＼についての注意をしないで、とかく、たい、番號として見るといふ傾きをもつところが、家庭は、血肉の親しみといふ事の外に、子供の数が少い點から、その子に對して、特別に注意し、それに對する愛情を多くもつて居るといふ事は、これは、云ふまでもない事である。無論、その結果、家庭は、愛に溺れるといふ弊があり、學校には、公平なる愛といふ長所もあるが、幼稚園の如きは、なるべく、寝るから起きるまで、または、起きるから寝るまで、一切萬事を、母親が世話をして居る。その母親の直接代理である。實をいへば、母親の膝の上から、その愛の手から離れてはならない時期の子供をなしてつれて來るのであるから、この愛の缺乏を子供等に感せしめないやうにするのが、極めて大切であると思ひます。それで、私は、理想的方法としては、まづ、いつでも、氣分のよい、にこ／＼とした、愛に富んだ人を選び、幼児が、その保母を慕ふこと、日ま

わり花が、お天日様の方へむくと同じやうにありたいと思うのであります。

二、次に、幼稚園で大切な事は、自然物を愛するやうにしむけるといふ事でありませう。これも、幼稚園に従事して居らるゝ方々の既に氣づいて居らるゝ處とは思ひますが、歐米各國の幼稚園と比べて見ると、まだ劣つて居るといはなければなるまいと思ひます。殊に、英國などの幼稚園では、カナリヤとか、雲雀とか、いろ／＼の小鳥を飼つたり、お部屋のぐるり、もしくは運動場のぐるりにそれ等の鳥籠や、兎のとやがあり、それから、金魚その他の魚類を飼つておくが、それ等の爲めに備へてある大きな鉢や、いろ／＼の物が、奇麗に陳列せられてあつて、しかも、それが雇人や、小使の手にかけて、先生が、子供等と一所に、朝、幼稚園に來るなり、「さあ、ジョージさん、あなたは金魚の餌をもつて來て下さい」とか、「アンナさん、そこから、お水をもつて來て頂戴」といふや

うにして、小水族館の世話に、三十分も、一時間  
も、それ以上もかゝつて居る。なんと、楽しい、  
上品な、活きた作業でありませぬか。紙を剥んだ  
りなんかして居るよりも、遙かにおもしろい意味  
のあるものでありませんか。此の事については、  
いづれ、あとで、十分お話することもあらうと思  
ひますが、むかふでは、凡べて、かういふやうに、  
小さい時から、動物を可愛がる事を注意し、また、  
植物などに對しても同様で、植木鉢の手入れなど  
は、非常に喜んでやり、また、やることに奨励し  
て居ります。それで、むかふでは、子供は、殆  
天性といひたいほど、犬でも、猫でも、馬でも、  
小鳥でも、皆可愛がります。寧ろ、可愛がり過ぎ  
て困る。たとへば、犬を飼つておくと、子供が、  
可愛いあまりに、犬と、接吻したり、猫のお皿と  
一所にして、食事をしたりすることがあるほどで  
可愛がり過ぎる方の弊がある位である。ところが、  
我が國の子供は、犬にでも遇ふと、真先に泣き出

すか、少し、大きくなれば、直に喧嘩ごしになつ  
て、棒か、石かで、對抗運動を始める。かうなる  
と、動物も、自己防衛の方から、勢ひ、牙をむい  
て起たなければならぬ羽目になる。そこで、馬  
でも、牛でも、日本の家畜は、猛獣である」と、  
或る西洋人が批評したやうになつてしまふ。これ  
は、我々の誠に残念とする性質の一つである。と  
うか、植物園にゆく時、動物園にゆく時、むしろ、  
お猿さんにお土産をもつて行つてやらう。公園  
にゆく時にも、雀のおみやげに、パンをもつてゆ  
くといふやうな、しほらしい、高尚な情をやしな  
いたいものであります。

三、社交的と云はうか、天真爛漫と云はうか、人  
間の愛と云はうか、人に對して、愛情のあるノン  
ビリした子供を養成したいと思ふのであります。  
日本の馬や、犬や、猿が見れば、直に、敵と  
思うて、蹴つたり、噛んだり、ひつ掻いたりする  
やうに、日本の子供は、どうも、他人を見ると、



泣き出したり、はにかんだり、なにか問はれても口を一つ聞かなかつたり、どうも、ひねくれた、不自然なところが多い。もつと、無邪気でノンビリとしてやりたい。これは、小さな時から、も少し、お仲間などに對して、うちとけて、お互に楽しく遊ばせるといふ事をやり、次第々々に、子供等の交際範圍が廣くなるにしたがひ、あまり人を恐れず、いやに、臆病な人見知りをせぬやうな子供にしむけることが出來やうと思ひます。此の點は、やはり、幼稚園の任務の一つであらうと思ふのであります。家庭だけでは、子供の交際範圍が狭いのであつて、幼稚園は、やがて、子供の社會學の第一巻目でありますから、意地腐れの子供を治療して、あまり、わるすれにすれた子供でもない、無邪氣な、さつぱりした、人に問はれたならば、知つて居る事は、知つて居るといひ、知らぬ事は、知らぬと返事の出來るやうな子供にしたいものと思ひます。

四、審美的教育に注意するといふ事も、幼稚園が務めねばならぬ任務の一つと思ひます。一體に、今日の學校生活といふものは、私は、ゑらい不潔な、不精なものと思つて居ります。近頃は、歐米各國では、學校の建築などに、非常に金をかけて、子供が、家庭で養はれた美感を、學校で毀してしまはないだけには、ゆき届いて居るのみならず、貧民教育などをするやうな處、又は、小さい子供に對しては、たとへば、托兒所の如きは、實に、設備が立派なもので、恐らく、あんな貧民の子弟が、一生の中、こんな注意の届いた取り扱ひを受ける事は出來まいと思ふやうな設備をして居ります。ところが、日本では、大抵の處は、家庭よりも不潔で、不精である。學校に來て見ると、家のお庭のやうに、草木が植ゑてあるかといふと、甚だ廣い處に一本のろくな木もなくて、砂ほこりが、思ふさま飛び舞つて居る。床板を見ると、宅の玄関や縁側のやうになつては居ない。土足でこそこ

と上るのだから、板の目も見えぬ様になつて居る。この他、何處を見ても、随分、没趣味な殺風景な境遇を形作つて居ります。

これでは、いつたい、困るではないか。さういふ學校に、八年も、九年も通つて、殺風景な生活をすると、その人間は、やはり、世の中の秩序といふ事も知らない、言語、舉動が粗暴野卑で、不穩な思想感情を有し、社會に立つて、どことなく、出來て居ない人間といふ感じを與へる。學者と云ふ事と、教育あるといふ事とは違つて居るので、學問は出來なくても、ゲビルデテンシエン即ち教育のある人、陶冶のある人といふものがあるのである。

それで、大體に、私は、學校教育といふものは、もつと、趣味を高め、人品を高尙にするやうにしむける必要があると思ふ。それであるから、幼稚園の如きは、やはり、家庭となるべく、あまり事情のちがはぬやうに、急に殺風景な、製造場のやうな處にうつされたといふ感じの起らぬやうに

注意して、或は、一輪の花を挿すもよからう、或は圖畫、手工などの場合に、色合ひのよい配合のうまく出來て居る繪なり、品物なりを見せて、美を樂しましむるやうにとめるもよからう。或は、創作力の基礎を與へて、次第に、眞に、美の鑑賞が出來る人たらしめむるもよからう。此等何れも人その氣のついて居ることに相違ない任務の一つであらうと思ひます。

五、その他も規則正しく、學校に來て、新たな、よい習慣を作るといふのも、一つの重要な任務であつて、とかく、家庭に居ると、世話が届き過ぎたりする爲めに、子供が依頼心を多くし、あまり、規則正しい生活に慣れる事がなかつたのが、大抵の事は、時間通りにやるとか、お仲間同志相扶けてやるとか、自分だけで、ある仕事を任せられて、自治的にやるとか、甘やかしては駄目で、命令には、従順でなければならぬとかいふ權に、いろいろの良習慣を養ふ事が出來る。此の點は、無論、家庭でも出來ないことではないが、幼稚園は、殊に、やりよい地位にあるものと考へてよからうと思ひます。(以下次巻「愛護」)

## 社會と兒童（續）

（フレーベル會二月講習會に於ける講演）

文學士 小林 照 朗

今日物質的文明の世の中では、物質的勢力が大に  
 瀾登致しまして、動もすると兒童にも煩を及ぼす  
 のであります。彼の菅原の芝居の如き、主公の  
 身代りに自分の子供を犠牲にするやうなこともあ  
 りまして、如何に子供が社會に活動して居るか  
 いふことを證據立てると思ふのであります。  
 子寶といふ言葉は日本に於ては昔から唱へられた  
 言葉でありまして、日本では子供を持つといふこ  
 とは非常に結構なことであるとして喜ばれたので  
 あります。前に申しましたやうに、子供は二人で  
 よいと三人以上生むはどうとか、餘り澤山の子  
 供を生むと親が養われるとか、多く子供を養ふと自  
 分の化粧料に影響を及ぼすといふやうな、西洋人  
 とは大に趣を異にした所がありまして、實際こ

れは日本の家族制度の非常に立派な所、非常に喜  
 ばしい所でありまして、日本の家庭が斯ういふやう  
 な方面に影響を受けて居ることは實に大なるもの  
 であると思ふのであります。尙ほ子供が社會に與  
 ふる影響に就て、殊に有力なる點は次に私が御話  
 しやうと思ふ所にあるのであります。

それは何かといふに子供は夫婦の權であるとい  
 ふことです。或は夫婦の繋ぎであるといふのです  
 社會問題として、動もすると、離婚問題が起るの  
 であります。此離婚の統計は各國とも随分其數が  
 多いのであります。日本でも調査の行届きまし  
 た所は多少分りますが、離婚の數は随分あるの  
 あります。若し子供といふものが無かりせば恐ら  
 く離婚の數は今日に幾層倍するであらうと考へら  
 れるのであります。此點に於きましては子供とい  
 ふものは實に「ファミリー」の根本を形造るもの  
 と私は思ふ。子供は夫婦の楔である、夫婦の繋ぎ  
 であるといふやうな事を今更申すのではありませ

ぬ、近世教育の發達の上に其初を形造つた所の彼の有名な佛蘭西のルーソーは早くも、夫婦といふものゝ間に、是非子供はなくてはならぬものである、子供は夫婦の楔であるといふことを「エミール」といふ書物の中に既に論じて居るのであります。實に子供は愛の源であつて、子供が居れば喧嘩もまるく治まるといふやうなことは随分社會に於て現はれることで、これ又子供といふものが如何に社會に影響を及ぼすかといふ事を證明するものである。日本では「負ふた子に教へられて淺瀬を渡る」といふ言葉がありますが、自分が背負して大きくした子供に教へられて淺瀬を渡るといふことは、單にそれだけの意味ではなく、今日の如く教育が普及して學校等の設備が、非常に完全になつた時代では、随分我々は世間に於て見聞するのでございます。殊に子供が新教育を受けて居るといふことは、新たに興つた社會に於て殊に多くそれを見るであらうと私は考へる。これに就て

私は一つ見聞談を致したのであります。私は去年の夏北海道の方に旅行いたしました。北海道といふ所は色々の意味に於て非常に面白い結果を我々に與へるのであります。私は北海道を觀察して感じた要點を丁度其頃歐米各國を廻つて歸した人に話しました所が、其人が私の北海道に就て感じたことはスツカリ其儘米國に移してよい、今日亞米利加は丁度北海道に行つた通りであるといふやうなことを云つて居りましたが、其北海道を見た中に私が感じた事の中に此負ふた子に教へられて淺瀬を渡るといふやうな事を度々見聞して來たのであります。それはどうかと申しますれば斯の如き新社會では、即ち移住した人が多く住んで居るやうな新興の社會に於きましては、教育が非常に熱心に唱へられるといふことです。即ち北海道といふ所は非常に教育に金を惜まない所で、學校の建物などは随分立派な設備が出来て居る。これ程立派な設備が出来て居りますが、然らば北

海道の人は教育があるかと云へばそれは反對で、反對な點から教育を重んずる、自分が明盲目であるから、自分が教育を受けなかつたから、却つて教育といふことに金を投ずる。詰り熱心にそれを希望するといふのでありますが、其所で此子供が如何にさういふ社會に影響を與ふるかと見ると、前にも話した通り學校教育を受けた者は二十以下の若者に多く、二十以上の人の中には、所謂移住者で、腕一本で此地に來たやうな者が多く、世間的の經驗には富んで居りまして、風教に及ぼす上から云へば大に寒心すべき事が少くない、それが負ふた子に教へられて、學校歸りの子供などが随分親を躰ける。御存じの通り移住者の多い北海道などでは、男が單身移住したものも多くして、女は少いのであります。従つて風教問題にも非難すべき點がナカ／＼ある。女の方でも、随分方々の男と關係して暴れ廻つた揚句、今日では立派な家を造つて居るといふやうな者も多く見受けるので

あります。さういふやうな者は申すまでもなく、教育などは受けて居りませぬ。所謂人の母として風教の點に於て寒心すべき事は澤山ある。即ち家庭教育の大事であるといふことは學校教師などは充分云ふことでありますけれども、斯んな風でありますから北海道の家庭教育に非常に困る。自分の娘を高等女學校に入れて居るに拘はらず、學校から歸つて來ると、随分親の不躰な言葉を聞かせる。子供は直ぐ「御母さんそんな馬鹿な事いふものではないませぬ」とやり込める。他所の家に行つても子供が居ると話しを遠慮しなければならぬといふやうな有様である。

もう一つこれは中學生徒の例であります、親が不品行をした習慣がナカ／＼止まないので、云ふも穢らはしいやうな所に遊びに行く、所がお母さんも矢張り教育などはないから家に居つて色んな事を云つて立腹して居る、其結果どうするかといふと、最後中學校に行つて居る子供を呼びにやる。

中學の五年位の子供をば、父の遊んで居る場所にやる、子供は使に行くくと、父は誰れが使に來たと聞く、貴方のお坊さんだといふと長男が來たのかどうか通して呉れ、人間といふものは酒を飲まなければならぬ、中學校の五年級にもなつたのだから酒を飲む位は教へて置かなければならぬといふやうな調子で、中學校で家庭教育のことを如何にやかましく云つて見ても甲斐がないと、斯ういふ事を云つて居りましたが、新興の社會に於きましては、今の負ふた子に教へられが其儘現はれて居ります。子供が却つて改良感化に當るといふのです。教育といふことを本統にやるには、どうしても新興の社會に於ては子供に望みを屬するやうになるのであります。これが社會に立つ時代を俟たなければ殆んど教育の効果なるものはないやうな感じを興へるのであります。北海道のやうな所では子供が社會に及ぼす影響は随分大なるものがあるのであります。

昔は子供といふものは總て親の子供といふことに思つて居つた、西洋に於きましても希臘羅馬の時代、又基督教の出た猶太などに於きましても矢張り斯ういふ思想が行はれたものであつて、即ち子供は親の物である。子供を活さうと殺さうと親の勝手である。従つて彼の鞭撻といふことは、猶太希臘、羅馬等にはナカク盛んに行はれたものであります。たしか聖書の中にも「鞭を加へざるものは其子を憎むなり。子を愛するものは連りに之を戒む」とかいふ句があつたと思ひます。それからみれば今日は全く反對で、子供といふものは社會の公産物として取扱つて行かなければならぬやうな反對の思想を有つて來ました。今日では學校の教師が兒童を鞭つやうなことは禁せられて居るのであります。さういふやうなことがなくても、多少これに類したことを田舎の小學校などでやりますと、父兄が承知しない傾向を生じて随分問題が起つて來るのであります。これ等に對

しても社會と子供との關係は大に研究しなければならぬ問題でありまして、成程子供といふものは社會の産物でありますと、同時に又家庭の産物といふことも忘られないのであります。さういふ方面に就て、是から少しく論じて見たいと思ふのであります。

それに先達つて、尙ほ申したいと思ひますのは、子供が我々大人に影響を與へるといふこと、それは何かと申しますと、世の中の人は能く云ふのであります、子供がなければモット仕事が出来やうとか、學者の方で云へばモット勉強が出来やう、どうも子供が邪魔をして困るといふのであります、私はこれに對して反對の考を有つて居る。世の中は實際は此子供のある爲に、自分の仕事に熱心従事するといふことが出来るのであつて、世の中の人が色々な方面に活動するのは大に子供に鞭撻されることが多いだらうと思ふのであります、實際に子供を養はなければならぬ、子供を教育し

て行かなければならぬ、其必要上仕事をやる。働くといふことは今日一般の社會に於て其事例を多く見る所であらうと思ひます、人間が家庭に於て子供といふ繁累がなく、勤勞しなくても暮らして行けるといふことになつたらば、それでも尙ほ勤勞するか、學者ならば大に勉強するか、勞働者ならば大に勞働するか、これは考へ物であらうと思ふ。

或西洋の書物を読んで見ました所が書いて居る學者はボサンケーといふ人で、家族論の中に書いて居る中に、或る所を通つた所が妻君が臺所で忙がはしげに働いて居つた、ところが子供が付廻つて頸に手をやつたり或は背中に廻つたりして居る中で、女は一生懸命に働いて居つた。それを見て誠に氣の毒に思つて同情の念に堪へなかつた。そこで貴嬢そんなに子供に邪魔されては其爲に随分手間が取れませうと云つた所が、其婦人は怒るやうな態度で、どうしてさういふ事を仰しやる。子供

が斯の如くして呉れるので働けるのである、子供がなかつたならば何を樂しみに働きませうと云ふたので其人は之を聞いて、子供といふものが家庭に於て重要な意味をなすものであると感じたと書いてありますが、實に其通りであらうと思ひます、子供がなかつたならば夫婦といふものは所謂苦痛たるに過ぎない、社會も子供があるが爲に大に趣を増して、色々の仕事も出来るであらうと思ふ。でありますから、佛蘭西の二覺制度といふか如きは根本的に間違つて居るといふことが、學究的に研究しなくても充分我々は知ることが出来ると思ひます、所が斯の如く子供は家庭に於て重要なに保はらず、先に云ひました如く、近世文明の結果、經濟の苦しい結果随分場合に依ては子供を邪魔物視するといふのが多いのであります。

一月二十五日の倫敦タイムス電報が日本の新聞に載つて居りました中に斯ういふのがある。佛蘭西の出産率は減少して、佛蘭西では殖民地の軍隊は

新たに土人を以て組織するといふことがありました、丁度先月の二十五日は今から二週間前です、イムス電報に載つて居るのであります。斯ういふことは單に外國電報だとしてはそれまでいあるが斯ういふ短かい電報でも我々には非常に無限の感慨を與へるのであります、佛蘭西では今尙ほ此出生率の減少が、千九百十一年の今日尙ほ悪影響を現はして、今までは佛蘭西人に依つて組織せられた軍隊までも、土人に依つて組織せねばならぬやうな形勢を生じて來たかといふことは我々は想像するのであります。同時に我日本に於ても將來斯の如き形勢に陥らないやうにやつて貰ひたいと感じが致すのであります。此佛蘭西の人口の停滞又は減少は非常に識者の憂ふる所でありまして、今日に始つたものではありませぬ、何時か佛蘭西の議會問題に提供せられたこともありまして、斯く人口減少の原因は果して何處にあるかといふやうな事に就て論じて居る學者も見受けるのであります



或は小説家の如きは小説に仕組んで、子供を生むことを避けるやうな母は眞の母でないといふやうなことを論じて居るやうであります。其結果何人以上の子供が出来たならば國家へ取つて養ふとか、それに勳章を與へやうとか云つて居る人もあるやうであります。

工場法といふものも、是又子供に對する保護であつて、餘り多くの荷物を背負してはならぬとか、餘り長く働かせてはいかぬとか、色々の方面から論じて居るのであります。

單に生れた子供を保護するだけでは本統の子供の保護といふことでない、生れた子供を保護するのみならず生れない子供を保護して立派に生ませる若くは家庭に於て餘計子供を生むやうに考へる必要があると私は思ふ。

日本は近來朝鮮を併せて、或は滿州に殖民すると其他の殖民を圖ることでありまして、諸君の御承知の通り大學には殖民學の講座が置かれるやう

になりましたが、通常殖民といふと移殖、移らせるといふことでなければならぬやうであります。が、私は學問的研究よりすればどうしても殖民といふ事の中には、生むといふことを含まなければならぬ、廣義に解すれば二様の殖民があつて、始めて殖民といふことが完全して來ることと思ひます。

如何なる社會が健全であるかといふに、社會學は斯ういふことを吾人に教へるのであります。人口が生れてから、二歳三歳四歳十歳二十歳、或は三十歳四十歳六十歳と云ふやうに上に伸びて來る。其統計を取つて見ると或は十歳以下十歳以上二十歳以下二十歳以上、三十歳、五十歳と分けて統計を取つて見る。さうすると六十より五十、五十より四十と段々歳の小さくなる程、數が多くなる、丁度正三角形のやうになる、斯の如き社會は誠に健全な社會であつて旺盛な證據であります。日本の人口の統計は丁度斯ういふやうになります。と

ころが不健全なる社會は、それが反對で、鐘形になる。五歳以下より二十歳前後の處が多いとかいふ風で鐘形になる。如斯不健全な社會は、將來人口の點に於て減じすべき社會である、學校にしてもさうである。一年から六年まである小學校を經營するとして一年の入學者が、三年四年より少いやうな状態を現はして來ると其學校經營は有望といふことは云へない、昨年あたりの入學期に、東京市内の高等女學校に於て、入學希望者が少かつたと云つて一時悲觀に赴いたことがある。入學する生徒數が卒業する生徒數より少いやうでは、其學校の經營は健全に發達しやうとは思はれない社會も之と同じ關係で、子供の出生が少いやうな社會は寔に不健全な社會と云はねばならぬと思ふのであります。皆様方におきましても、單に他人の子供を教育するといふだけに止まらず、家庭に於て自分の御子供達を御育てになり、其經驗も交へて人の子を保育せらるゝなれば所謂兒童保育

者といふ意味が、更に重要なる意味を加はへ、又更に興味を増すであらうと思ふのであります。子供が有ると却つて邪魔になる、殊に教師なんかは出來ないといふやうな話を聴くのであります。それは間違ひであつて、眞の女のやうに子供に興味をもつて、行つたならば、子供があれば教員は出來ないといふことではないと思ふのであります。詰り外國に於ても、幼稚園とか小學校の事に關して、父兄側から色々の非難があるのであります。此事に就て御參考までに申上げやうと思ひます、随分これに類したことは我國にもあるのであります。さきに申しましたボサンケイの書物に家庭と子供との關係を論じて居ります。其中の始めに斯ういふ事を云つて居る。子供といふものは古今變遷がない。今日の時代も昔の時代も、時代としては大に變つて居るけれども、子供といふ事には變つては少くも變りがない、若し變りがありとすれば昔では往々子供を殺した例もあるが、今日

では籠へて行はれない、この一事が變つた丈のものである。といふて居ります。我々が日々教育史を調べて居りましても、詰り教育史の中に、その事が出て来るのであります。希臘では胎動五ヶ月以下のものは殺すのも自由であるとか書いてあります。日本などでも、子をまびくといふことは聖徳太子が人民に教へられたことであるなど出て居る。高知縣あたりでは随分此例があるやうで、統計の上には現はれて居ります。それは、都會の人口といふものは大抵土地によつて、どれ位あり又どれ位殖えるといふことは分つて居るのであります。年々殖えて行くべき筈であるのに、夫れが殖えないといふ状態を示して居るやうならば、其都會は多少其間に「ダーク」の方面がある、それを調査して見ますと、随分色々の事が出て来るのであります。随分古今に亘つてさういふ事もあるものであります。

又右の書物に子供を論じて参りまして、子供は無

事無なるものである。我々は鳥を見ても分る、鳥か糞にしても黄ろい噴を出して餌を咬へるのを見ると可哀相だといふ感じが起る。子供も丁度それと同じで、子供に物をねだられて腹を立てるものはない、子供の物をねだるのは何等の心なく實に無邪氣である。自然同情を濫ぐやうになるものであります。其飾りない心を愛することを論じまして、それから漸々子供と家庭の關係を論じて居るのであります。其中に子供は幼稚園なんかで育てるより家庭に於て育てる方がよい、家庭に於て育てば個人性を起す、此點に於ては子供は家庭に置く方がよいといふのです。これは直ぐ私共は賛成は出来ないと説であります。大に考ふべきことであります。唯だ斯う云つて居るといふことを幼稚園なり小学校で子供を預つて居る人は參考にすべきことであらうと思ふ。勿論、多少の弊害は出て来るものでありますから、弊害を取除けることは必得なければならぬと思ふのであります。更に

進んで云つて居りますのは、近來學校を家庭の代用とせんとする傾向が非常に多い、で近來西洋では將來學校は子供の世界である。即ち子供は學校で働き學校で遊ぶ、何から何まで學校でやるといふのであります。貴族であれば幼年から寄宿する學校に入れる、貧民であれば通常の學校に入れる一切學校で子供を育て、費ふといふことを論じて居るものもあります。學校を家庭の代用にせんとする傾向のあるといふことを論じて居りますが、これは又大に參考になる事であらうと思ふのであります。それは子供を學校で育てるのは宜いか悪いかは問題であつて、子供を學校のみで育てるといふのも極端でありますし、又家庭のみで育てるといふことも亦極端であります、其中間を執るのが最も宜からうと思ひます。中間を執るとすれば半ばは學校に居り、半ばは家庭に居るといふことにしなければならぬと思ふのであります。學校のみが教育の場所でない家庭に於ても極めて重要

であることに就てさういふ方面に就て、論じて居りますが、參考にならうと思ひますから、それを少しく述べやうと思ひます。

それは學校と家庭といふ事を云つて居る。第一に家庭といふものは子供の現在の爲にあるものであつて、家庭といふものは子供の將來の爲にあるものである。即ち家庭に於ては子供を早く大きくしてさうして有用な材にしてどうするといふよりも親が自分の樂しみの爲に育てるといふ感じがある六つ七つは無邪氣なもので何時までも此儘で居つて欲しいやうな感じがする。十九二十にもなると親にも逆つたりして、腕白子僧の時の方がよいやうな感じがする。然るに學校はさうでない、學校に居る間の年数は限られ居るし、學校のさせる事も定まつて居つて、或る思想の爲に一々目的を持つて教へて居る、學校と家庭とは此點に於ても霄壤天地の差がある。それから次には家庭に於ては相助けるといふ思想が發達する、子供は親のする

ことを真似て直く直似をする、御馳走でも拵へれば直く自分もやるといふ風で、例へば鯉節なら鯉節を出來ないながらに自分がかく又年取つた人が何か高い所から取らうとすれば自分も真似をする斯ういふ譯で、互に相助けるといふ事が、家庭では自然に行はれる。學校では斯う云ふ風な相助けるといふことは出來ない、其次に家庭は永久的である。即ち家庭に於ては、大きくなつてお父さんになつても矢張り家庭に居る、學校は一時的であつて偶々學校を出た人が教員でもすれば其學校に行くこともあるが、大抵は自分の出た學校へ戻つて來ることは少い、其次には家庭に於てはどんな家でも、自分の子供を他所の子供と同じと思ふ子供と思ふものはない、自分の家の子供は特別である、特別であるといふのみならず、他人から、どうも普通の子供のやうなと云はるれば喜ばない、何所か違つた所があつて欲しい、變つた所があると云はるれば喜ぶ、何故喜ぶかそれは、遺傳から

來るのであらうと思ふ。殊に自分に幾分か似て居ると云はれ、ば喜ぶといふやうなものである。それは物質的の方面からのみでなく精神的の氣風とかの方を大に希望して居る。ところが學校ではさうでない、學校では個性を顧みるといふことは云ふまでもないことであるけれども個性的の訓練は出來易いといふより出來難いといふ方が、學校本來の持前である。何故であるかと云へば、一般の子供の母として共同に取扱ふのであるから、各々の特長に従つてやるのは困難である。併ながら茲に學校は子供を、或は「クラス」なら「クラス」全體の爲に、或る特別の困難に打勝つといふ精神を與へる事が出来る、これは學校の利益でありまして、これは學校の利益として考へなければならぬ、家庭では我儘が出来るが學校では多少遠慮しなければならぬといふことになる。

それから近來、軟かい消化し易いものを食はせやうといふ傾向がある、これは大に考ふべきことで

ある。亞米利加では此頃朝飯を非常に消化し易いやうに製造して專賣特許を得たものがある。食ふた物を直ぐ消化しやうとして居る。今日の學校教育の傾向は斯ういふ傾向がある。無暗に學科を容易しやうとするのは、それであると斯う論じて居る。これはまあ近來日本でも多少斯ういふ意見を持つ人もあるやうであります。これ等のことは極端に云へば昔の學校の風になつて仕舞つてよくないことは申すまでもないことであります。一の時弊を救済する爲めに稍や誇張して云つても居りませうが學校の教育に携はる者には又參考にならうと思ひます。

日本の教育家として最も實業教育に非常な趣味を有つて居られた、貝原益軒先生は、困難して難儀するのは將來の困難を無くする爲であるといふやうに云つて居られますが、それが今の學校に於ては忘れられたといふではないのでありますけれども、これ等のことが今日の學校に薄らいで來たと

いふのは事實であらうと思ふのであります。此學校で教へることが近來易くなつたといふことは、これは社會全體に就て重要なことであると思ふけるのであります。例へば昔ならば足で歩かなければならぬのが、今日は人力車、電車、汽車等が出來て、非常に交通が便利になつた結果として歩かなくても済む、であるからして儘かロビンソンといふ人だと思ひますが、將來の文明を呪咀した人もある。此調子で進んで行つたならば、將來の文明はどうなるか、斯ういふやうに人々が消化の容易なことののみを好んで行は、將來人々の齒はいけなくなつてしまふ。さうすると自然齒の必要はなくなつて、遂には齒は無くなつてしまふ。近來人間の齒が次第に悪くなるが、矢張り其傾向である。頭でも帽子を被つて、保護するから、將來は段々禿頭になりて、頭を保護する髪はなくなる。といふのです。それから足でもさうである。自分の足で歩かなくても、交通機關が發達して、自働

車とか何とか、足を勢しないで行く結果、段々足が利かなくなるのは當然である。將來人間の足などはなくなつてしまふ、それで他の方面が非常に發達する。例へば頭は益々使はれるから將來の人間の頭はドシ／＼大きくなる。之は「サイエンス」から見た自然の理窟であつて、齒がなくなり、足がなくなり、頭ばかり大きい人間が出来る、斯ういふやうに論じて居ります。併し之も頭から全然その通りであるといふことは出来ない、今日の進化論の所謂、用不用の法則、其點から云へばさうも云はれるかも知れまいが、私は唯だ皆さんの御參考次に述べて置くのであります。或は人間には尾もある、今は殆んどないけれども、解剖學者に云はせれば尾のあつた時代があつた證據には今日我々に尾骨がある、又男の乳も必要のあつた時代は大きくあつたが段々必要がなくなるに従つて今のやうに小さくなつて仕舞つた、といふやうに云ふのであります今日之の文明を呪詛するといふの

はこれである、將來の文明が、一體どういふことになるであらうかといふことは、大なる問題であります。兒童と社會の方面とは違ふ問題であります。今日之は申しませぬ、尙ほさきの「ボサンケ」は家庭が學校に對する不平を述べて居るのであります。家庭が學校に對する不平といふと、一體老人といふものは何時も若い者に對して不平を云ふものであつて、どうしても子供と老人とは思ふが違ふ、學校に子供を入れて、さうして學校の講義を聴いて歸つて、家庭に這入るとどうも學校で聞ひた通りに行かぬやうなこともある。其非難の一つは長者に對する禮を知らぬといふのであります、何故に長者に對する禮を缺くか、若い者と老人との間には多少さういふ傾もありませうが、斯ういふことを云つて居る。子供が親とか長者に對しての敬禮の仕方を知らない、と云つて昔のやうに厭迫して敬禮でも何んでもさせるといふ譯には行かない、これは昔では智識の源は皆父母であ

つて何でも親に聞けば知つて居る。學校などは無論ありませぬ、日本では寺小屋位であります、親は何んでも知つて居たところが、近來は學校が出来てから、智識の源泉は親でなくなつた、學校の先生に聞けば何んでも知つて居るが、親は知らないことが多い。そこで親はそれ程偉い者でないといふことが子供の頭に沁み込んで居る。これは一方から云へば教育のある結果であります、此結果子供が親に向つての尊敬の程度が衰へるといふことになる、これは學校の教育に従事する者は注意しなければならぬことであるが、親の方でも注意する必要があります。子供より年長だといふだけでは子供を教へるといふ譯には行かぬ、そこで親の方でも多少書物を勉強する必要があります、子供に負けない位に勉強する必要があります。斯う云つて居るこれは誠に参考にならうと思ひます。

要するに子供の教育に従事するとか、兒童の保護に従事するものは、社會と子供とに關して、社會

の單位は家庭でありますから、どうしても家庭といふものに就て充分それを依達しなければならぬ充分家庭といふものの研究をして貰ひたいと思ふのであります。或はこれが爲に家庭學といふやうな學問も起りませうが、今日は唯だ社會學の一部として家庭を研究して居るのであります、家庭の研究はどうしても貴方には多少心掛て貰ひたいといふ考を有つて居るのであります。況んや家庭といふものは社會の根本であつて、大學に入れて三年學ぶことも家庭に於て三年學ぶ方が、其品性の上には大事であるといふ論者もある位でありますから家庭の研究は今後益々歩を進めたいと思ひます。纏らない話を長く申上げましたが、兒童問題に關する色々の詳しいことは他日に譲りまして今日はこれで終ります。(速記)

誠は天の道なり  
之を誠にするは人の道なり。

(中 應)

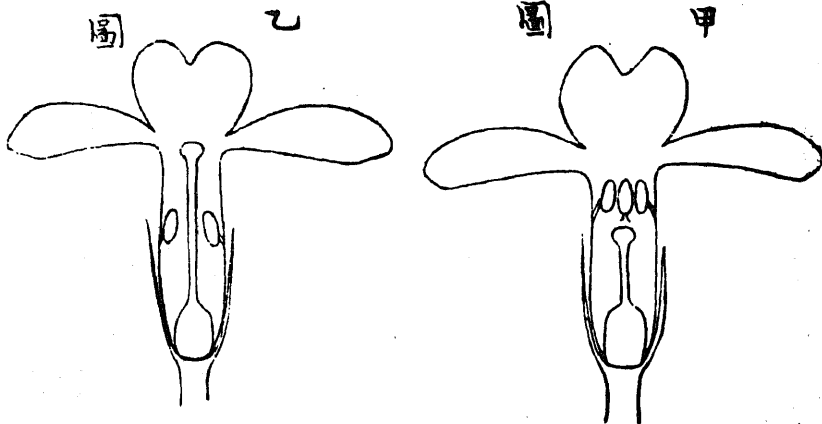


櫻草とげんげ

保井コノ

櫻草は東京近傍の河原、即ち戸田が原、浮間が原、田島が原等荒川沿岸の原を飾る春の花の一つであります、此花は櫻草科といふ科に属する植物で、全く櫻花とは縁故の遠い花でありますが、只其花瓣の先端が櫻花の如くに切れ込みがあるので、此名を與へられたのであります。

櫻草の花の萼は五枚ありまして其基部に近い所て互に連つて筒をして居ります五枚の花瓣は此萼と互生して居りますか是も互に續かつて、筒部を作つて居ります。雄葉は、また五つありますが、是は花冠の筒の部分に、附いて居りますが、其附着する場處は花によつて違つて居ります、即ち甲乙二種の圖に示す様になつて居りますのです。今甲の圖の雄葉の附着點を乙圖に示す花の雄葉の附着點と比較しますと餘程高い所にある事が解り



ませう。是と對比しまして此兩花の雄葉を見ますと、共に一個ありますか其花柱の部分か甲では短く、乙では長い事に、氣附かれる事と思ひます、此差異は是に込まりこんで柱頭の構造も顕微鏡で見ますと少しく違つて居ります、花粉の大

きざも、違つて居りまして高い雄薬のは大きく低い雄薬のは小さいのであります。

此差異は何故に出来たかの問題はなかく、面白い解答でありまして、有名なる進化論の開祖チャールスダーウイン先生の研究せられて、其著書中に述べられたる所を以て此解答の初めと致します。

是によれば凡ての花は自己の花粉を自己の柱頭にうけて受精作用を行ふ時は、其種子弱くして、随て次代の植物は充分の健康なるものでありませぬ、それで花は成るべく自己の花粉を自己の柱頭に受けない工夫をして居ります。即或時は雌薬が先に熟して自花の雄薬が成熟する時には、雌薬は既に受粉し終れる事もあり、或は、雄薬が先に熟して其花の雌薬が熟する頃には、最早其雄薬の、薬の中には花粉の跡を止めない様になつて居る事もあるのですが、此花の如きは白花授粉を避ける自然の妙用の極端を發揮したものであつて此大きさの違つた花粉は各定まつた長さの花柱を

有する雌薬の柱頭でなければ發芽をしないのであります、即ち低き位置にある雄薬の花粉は丈の低い雌薬に至り高き位置にある雄薬の花粉は丈の高い雌薬の柱頭に至つて始めて花粉管を出すのであります斯の様な花を二形花と申しまして、植物學上では有名な事實とせられてあります、只一言に櫻草といへば櫻に似た草花とのみ思はれますけれども、能く觀察すると、茲にも自然の奇妙なる働きは見られるのであります、私共は子供の單一な摘み草といふ間にも今少し、氣を用ひて觀察させる必要あらうかと思ひます。

櫻草は多年生草本即ち宿根草でありまして、冬になりまして、地上部は皆枯れますが、翌春又地中に生きて居る地下莖から葉を出し、花軸を出しまして美しい花を開くのであります、此花は今日こそ摘草位にせられて居るばかりですが、徳川時代には此櫻草は盛んに栽培せられて、是から出ました澤山の園藝變種には、今日、菊や朝顔に

見らば、多くの美しい名がつけられまして非常に愛玩せられたものであります。維新後に、此風が廢りまして今日は、極めて少數の愛玩家があり、其種數も極少數を刺すのみだと申す事であり、其代りに今日は、歐洲産或は支那原産の櫻草の類が澤山に、輸入せられまして、早春の温室内を飾り、また春の花壇を飾つて居ります。今其二三を挙げますと。

「プリムラ、ミネシス」是は支那の原産で御座います。彼地では、報春花と申す、つまり、梅を花の魁とか申す様に、早春、諸種の花に先だつて花を開き春の來るを告げるといふ意味から起つた名で御座いませうか、日本では「寒ざくら」と申して居ります。今日は植木屋などでも、學名の方か通つて居ります。是には白、淡紅、紅色等があります。花も澤山につき大きくてなかく立派なものであります。

是に反して花は極めて小形で淡紅色の可愛い、花

のさく「プリムラキルペシ」し申すのがあつます。是も支那の原産でありますが西歐に産するといふより歐報春の名があります。西洋では「ベビープリムローズ」と申すさうです。

「プリムラ、キューエンシス」是は英國のキュー植物園に出來た雜種であります。花は黄色で極めて豪宕な趣のある葉を持つて居る上品な種類であります。此外に尙、「プリムラ、ブルガリス」、「プリムラ、オプコンカ」等黄色、赤色或は絞りの花を咲かすものが澤山にあります。凡て宿根のものでありますから根分けをして繁殖させますけれども種子で繁殖させまして色々の變りましたものを見るのも一般の楽しみと思ひます。

此他に、我國では尙高山の御花畑を飾る櫻草の種類が若干ありまして高山植物の愛養家に培はれて居ります。是等は極めて優雅なものか多く日本趣味に適つたものが澤山にあるのであります。

櫻草科のものゝ内に、櫻草類の外に近頃盛んに培

養せられる「シクラメン」と申すのがあります、是は球根のもので御座いまして其形から、西洋では「ブタノマンチウ」と申す名が御座います、葉も一寸美しいのに、花は純白、紅色、白に紅色のぼかしなどありまして、其上に面白い形を致して居りますから珍重せられます、花始から球を買つて栽えるのもよろしう御座いますが、實生を作りまして色々の變つた色のものを、作るのもまた一興と存じます、併し實生は三年位たないと花はつけませぬ、此外に日本産の「をかたらのを」なども澤山に栽えると面白いものと存じます。

「げんげ」又「れんげさう」は豈料の植物で御座います、藤の花や蠶豆の花と等しく、蝶形の花を一つですが一つの長い柄（總花梗）の上に澤山に集まつて恰度傘を擴げた様になつて居ますから繖形花序と申します、是は、随分廣く分布せられて居まして摘要と言へば、げんげ、たんばくと申す程で御座いますから善く御存じの事と存じます。

併し此草は花のみでなく今少し研究しますと面白く且有益のものである事が知られます、即此草をぬきとりまして注意して見ますと其根に小さな球の所々に附着して居る事に氣づかれませう、此球は、根に出来る瘤の様なものと言ふ意味から根瘤と申します。

根瘤は如何して出来るかと申すに、「根瘤バクテリア」と言ふ「バクテリア」の一種が根の組織内に入りまして茲で發育して其數が殖ゑ、其刺戟によつて組織の膨れて出来るのであります、是は人の身體内に「化膿菌」など、言ふ「バクテリア」が這入つて腫物が出るのと同じ理由であります、併し腫物は人の身體から養分を採ります計りで害になるも益になる事が御座いませぬか「根瘤バクテリア」は「げんげ」には有益でありますので、つまり雙方に利益があると言ふので、他膿菌は人體に寄生すると申すけれども、「根瘤バクテリア」は「げんげ」に寄生すると言はずに、「げんげ」と共生し

て居ると申します、何故に、左様であるかと言ふに、植物が養分として根か吸ひ上げるもの、中で窒素化合物は、重要なもので御座いますが、此「根瘤バクテリア」は空氣中から窒素を探りまして窒素化合物を作りまして、自分か養分を貰つたり住處とする處の「げんげ」に與へるのからであります、でありますから「げんげ」は窒素化合物の無い、瘠せた土地でも充分に育つ事が出来ます、其上に此様な場合には其土地の中にも剰余りの窒素化合物を出来させますから人は是を利用しますと、土地を肥やす事が出来るのであります。是は實際に行はれて居る方法でありまして、瘠田に澤山の「げんげ」を播きまして其花を開きかける時になりまして、此植物を掘り起して、すき込みますと、土中に出来て居る窒素化合物と共に此植物體も立派な養料となつて土地を肥えさせます。「げんげ」の花の開きます頃の名古屋から米原までの間、即美濃の平原を通りますと、其鐵道沿線の

田の所々に、絳毛塚を敷いた様に此花の開いて居るのを見ます、是は此地方では非常に善い「げんげ」が出来ますので私共か根の所を持つて立ちましても引ずる位で、大きいのになりますと先端まで一丈に余るのが出来ます、それに此地方では「げんげ」を栽えて其種子を採集して全國に賣り出しますのであります、其額は随分大きいもので岐阜縣の國産の一つとせられる程であります。根瘤は只に「げんげ」のみでなく、豆科一般の植物について居ますから、是を見たいと思召さば、むまごやし」でも、「つめくさ」でも蠶豆でも大豆でも豆科の植物であれば何でも見られます。併し是等の植物につく「バクテリア」は皆各々違つて居るのであります、次の御話には是を證明し且「根瘤バクテリア」が豆科植物にどれ位有用であるかと證明するものでありませう。歐洲には日本や支那で出来る大豆が御座いませんでしたそれで以前獨逸で日本から大豆の種子を取

り寄せて是を栽培しましたが、如何しても花を開いて結實する事が出来ません、色々と考えた結果、土を取り寄せて栽えました所が始めて結實したので遂に「根瘤バクテリア」の有用なる事の解つたのであります、歐州にも苜科の植物が無い事は無いのでありますから土壤中に含まれて居ない事は無い筈です是から推しても各別の種には別々の「バクテリア」の居る事が了解せられませう、そして又此「バクテリア」が必要でなくてはならぬものである事が解せられ様と思はれます。

君子人に異る所以のものは其心を存するを以てなり。  
 君子は仁を以て心を存し、禮を以て心に存す。  
 仁者は人を愛し、禮あるものは人を敬す。  
 人を愛するものは人恆に之を愛し  
 人を敬するものは人恆に之を敬す。  
 (孟子)

## 思出ひのよま

双葉女學校 幼稚園保母 後 藤 りん

○一月の二十五日であつた、此日は天気朗かであつたが、非常に寒さを感じた、みんな會集から戻つて来て保育室に這入りますと、暖爐の周圍を残りす取りまき、それで種々の話を初めた、丁度前日が日曜であつたものですから、其日の中で最も面白かつたこと、つまらなかつたこと、嬉しかつたこと、悲しかつたこと、或は怖かつたこと、寂かつたこと、などを、さも得意顔に、話して居ります、それで、全身が暖まりますと、そろ／＼自分達の好む所に從て、活動を初めます、何時もなら、直に外にとび出すのであります、此日は除程の寒さを感じたものと見え、室内にて机の下や、廊下を知ひまはり犬や猫の眞似をする、すると、外の組までが、出掛けて来て、それに手傳つて椅子で周圍を圍つてやる、それで理想の動物園が出

來上つた、園丁も出來るし、種々の贈物も這入て  
 「ブー〜モー〜」と鳴いて居ります、それを今  
 度はズロ〜と引き出して遊びに出掛る、かと思  
 へば歸つて來る、御飯を喰べさせる、するかと思  
 へば檻の戸を堅く占め込む、すると中の暗い處  
 で、犬や猫が小さくなつて踊んで居る、それはそ  
 れは其状態の面白さと云ふものは側の者をして思  
 はす腹を抱へて笑はせる、すると又此方の一團は  
 何時の間にか叔母様ごとを始めてゐる是亦理想の  
 家庭を造つて赤ん坊、カーチヤン、ゴアン、マード  
 世今ニニシテ、アゲマスカラ、マツテ入ラツシ  
 ヤイ! などとやつて居る、するかと思ふとお姉様  
 に連れられて買ひ物から、散歩やらに出掛る、彼  
 處の方では、組が電車や汽車の眞似ことで、あ  
 たり人無き如くに走り廻つて居る、車掌の聲色、  
 運転手の眞似、果ては旗振り信號の眞似までする  
 出マスヨ、………チン〜、………動キマース：  
 ……ドツ前ノ方へオツノヲ願ヒマス! などと言

つて先きの叔母様連を乗せてやる、すると叔母様  
 連は講所乗り廻はしてから、或る停留所下車ま  
 して、さも大人氣な、口をき、く、歸つて參り  
 ます「姉チヤン、アンヨガ、痛クナツタノ」と言  
 ひますと「ア、ヨチ〜」と自分と同じ様な、子を  
 脊負つて、どちらが歩いて居るのやら薩張分らぬ、  
 風をして、よた〜と戻つて來る、肩掛を懸け居  
 るもの、頭巾を被り居るもの、扱ては大きな風呂  
 敷包を持った御女中さんや、實以て腹の皮を捻る  
 やうなこと許り、嗚呼、此天真爛漫なる兒童が常  
 々遊び居るにも、自然幼を愛し、長に從ひ弱き  
 を助け、強きを挫き、白から社會の現象を衣は  
 し、知らず識らず、己の思想を發露して、活動し  
 て居る、其状態に日々接して居る、保姆の愉快さ、  
 思はず、心身をして恍惚たらしめます、又個性の  
 觀察は此際を以て、番能く知ることが出來ます。  
 ◎三の組の各幼兒が唱歌の一つ二つを誦じてはつ  
 くと歌ひはじめた頃であつた、今日は各兒の好

みにまかせ二つ三つ歌ひ終りし後更に一人づ、呼び出して、其幼兒の望みにまかせ、何んなりと、あなた方の好む唱歌を歌つて御覽なさい、と言ひましたら之に對する幼兒の所作の面白さ愛らしさと云ふものは實に筆紙には寫し出すことの出来ぬ趣味を感じました、すまし込んで、したり顔に歌ひ終るものもあれば過半歌つて逃げ出すものあり、頸のみ振りて歌はぬもの、處々大きな聲を出すかと思へば末は小さな聲に終るもの、顔に紅葉をちらして、口の内で何にか歌つて居るもの、又楓の如き手を顔に推し當て、恥かしさうに逃げ出すもの、はては頭を掻くもの、お髯を掻くもの、着物を引張るもの、保母の顔ばかり視て羞むもの、半ば歌つて、先生に嘯りつくもの等、それはく様々の容子をして、傍に見て居る人々の顔を解かしめました、兎にも角にも人馴れて怖めず臆せず一人出て来て、一番うまく歌ふて、衆人に賞められ様と思ふが如き勇氣は到底家庭のみの保育では

出来ないことのやうに感じました。

○あまり年不相應な難事を仕込まざるやうにした、幼兒は何事にもするなと言ても、做したがる本能性がありますから、放任して置ても、知らず識らずの中に自然に發達いたします、あゝ危険、あゝ、じれつたいと思ふ事とがあつても、暫時、黙して自身に經驗さして、自ら通曉やうにありたい、勇氣、忍耐、及獨立等の精神修養は此間に於て最も深く兒童に印象し紀念せらるゝものであります。

○世間には子供が或る惡戯をしたからとて、大に叱つたり打擲したりする人がありますが、これは子供にとつて甚だ慘酷な仕方だと思ひます、子供は四五才位までは是非善惡の差別を知りませんが、これをすれば善いのか、悪いのか、痛いものか、危いものか、と云ふ識別がつかぬのであります、それゆゑ、斯様な子供のある内では最初から側の者が氣を附て、毀してならぬものは仕舞つて



置き、怪我を仕さうなものと思つたら、片附け置き、子供をして成るべく、其意思のまゝに、活潑に、運動の出来るやうにしてやりたいと思ひます、これは家庭ばかりではありません、幼稚園なども随分設備の不完全なる所では、まゝ、見るこゝがあるのです、破つてならぬもの、毀してならぬもの、採りてならぬもの、乗つてならぬものと言つて、片つ端から制止して、丁度犬の前へ旨い匂ひのするものを置て、お預けだよと言つて何時までも、ぢらして居るやうなことをするのは、まことに罪な仕方だと思ひます。

○我儘は飽まで制止すべし、古人云ふ「父母の子を愛するは自然の宜しきを得たるものなれども、道理を以て支配せざれば愛に溺るゝの恐れあり、愛に溺るゝ時は兒童の體質多く之が爲にやぶらると」何事も寛容の内に威嚴を備へ一言にして服従するやうに躰けられたし、世の父母たるもの、往々目前の愛に溺れ、遂に此子はどうして斯う親の云

ふ事を聞かぬだらうと、嘆聲を發せらるゝに至るのであるが、是は抑々其當初に於て聊かの我儘を漸次助長された結果に外ならないのです。

○兵法に奇兵正兵と云ふことがあるが、訓練上の方法にも、自ら奇正と云ふやうな區別があるかと思ふ、一つ二つの例を言つて見やうなら、人は食事の際に子供に向つて「御飯ヲコボシテハイケマセン」と云ふのが通例なのである、實に其通りで宜いのである、それを「ナニ、コボシテモ、イ、」と云ふ、なせなれば、こぼし〜喰べてみなければ何時までも上手に喰べることは出来ません、又よく人は子供に向つて「ソシナ亂暴シテハイケマセント」と云ふ、それを「思ヒ切テ活潑ニ遊ベ、ヨク遊バヌ兒ハ馬鹿ニナル」と斯様なことを言ひますと初めて來た兒の附添人などは吃驚するであります、併し正面から教へるよりは、所謂奇道を以て、反面から教へる方が、家庭の反省を促す便宜ともなり、場合に依つては、大層効能がある

のであります、これはあまり極端論でありますが、其實おもに附添人を教育する方便なしで、今の日本の家庭には別して効力があります。

危険々々と云つて子供を不活潑になし、筋肉の運動を十分ならしめざる結果、遂にひよろ／＼の役立すの人間を造るやうになる、子供は活動的のものでありますから、或る程度までは十分自由によらせる方が宜しいです、そして遣り損つては自分で自分を教育する「ルーソー」曰く「エミールガ」傷かす苦みの何たるを知らず成長するを悲む」とある共に極端な言ひぐさであります、何れも世中があまり形式的に傾くと斯様なことが言ひたくなるのです、併し日露戦争此の方一般實利主義に傾くやうになつて来て大に悦ばしいことであります、先達て一寸私が或る私事の會に参りましたら、其内に一人突然に君は學校の先生だつて、君をつかまへて斯んなことを言つては失敬かもしれませんが、僕は一體此節の學校教育の、やり方は氣

に喰はん先づ一寸言て見たところで衛生だ／＼なぞと云つて、子供に向つて何を言ふかと思へば硬いものは喰つてならぬ、やれ、これは不消化物だ、それ、そんな、ことをしては健康に害があるとか言て教へるものだから、青白い、ひよろ／＼の人間ばかり澤山できる、嗚呼、もー、これからの國民には日露戦争の様な、めざましい戦は出来ないだらう、……僕だつて戦争を好むと云ふのでは無い……全體このこと許りじやない、總ての遣り口が氣にいらぬのだと、すこしく酩酊の氣味であつたから随分語氣は鋭くあつた、併し私も此人にまけない極端な方でありますから、私も實に賛成なのですと答たら君も賛成なら、ぐづ／＼して居らないで十分やつて呉れ給へと言ひ放たれて、あと茫然と考へて居つた、なせなれば私は先生と云ふは名のみであつて教育者の末席にも這入ることの出来ぬ人間である、何處して世の人の耳目を傾聽させるやうなことが出来やうかと審慮したのであ

つた、所で、先日のフレーベル會に元良勇次郎先生の御演説を伺ひましたら、殆どこれと符合したやうなことを述べられた、其時に總て世中のことは何んでも斯したものである、個人で如何程やきもき思ひましても世の趨勢をまたなければ改良進歩と云ふことは却々困難である或る先生から言はれたことがある、水を器に入れましたも、初は漸時動搖して居りますが、遂には水平を保つが如く、物事極端から極端にはしつてしまへば、今度には中庸にをさまる、實に自然なもので五六年前には私の説があまり極端であると笑はれて採りあげられなかつたことが、今では殆ど其説に傾ひてしまつた、そこで此の度は中庸にをさまらうとしてつまり日本國民に適當なる教育の方針が見出されんとしつゝある、當時世の教育に心を傾けらるゝ方々が、子女の教育に益々注目せらるゝ様になり、日に／＼改良進歩を見るやうになりましたのは、實に悦ばしいことであると思ひます、何んとも、

をこがましい、申やうであります熱心のあまり、つひ筆がすべりました。

○能く世間の母親の申さるゝ言葉に「オツカナイ者」を一人拵へ置かなければ、子供が云ふことを少しも背かぬと、是は大に誤つて居るのであります、「オツカナイモノ」などを拵へ置かすとも、子供が柔順に服従するやうに饒けられたい、一體今までの母親たる方々は、多言の上に、言行が一致しないからいけません、母親たるだけの威嚴を備へ、寡言にして言行は一致にし、子供の我意は少しも通じさせぬと云ふ、意志を堅固に、そして家庭は些細の事柄にでも、表裏なきやうなされば決して「オツカナイ者」などは一人もいらす、子供は只の一べんで直つてしまひます。

君子に人の美を成して人の惡を成さず。小人は之に反す。

(論)

# 保育の實際

## 幼兒自作の唱歌

學習院女子部幼稚部

(一) (譜、かり〜わたれ)

一、電車〜走れ新宿行は先に青山行はあとにぶ

つからないではしれ

二、電車〜走れ花電車は先に、ボーギー車はあ

とにチャーン〜チン〜走れ

三、電車〜走れこわれた電車は先に、こわれな

い電車はあとにグン〜グン〜押して行

け、

四、子供〜遊べ、大きな子供先に、小さな子供

あとに仲よく遊べ

五、汽車〜走れ機關車は先に貨物はあとにシユ

ツ〜〜〜走れ

六、たこ〜上れ字だこは高く繪だこはひく、ブ

七、鯉々登れ紫の鯉がさきにかばと赤はあとにな  
かよくのほれ

(二) (譜、お〜む〜む)

一、お〜さむこさむ冬の風あれ〜兎が三つ一

ピョン〜〜ととんで行くあれはどこまで

とんで行く

二、………雪が降るあれ〜小犬がみつ四

つツン〜〜とほえて行くあれはおうちへ

かへるのか、

三、………雀が二三匹チユ〜

〜とないて行くあれはどこまでないて行く

(三) (譜、兎〜)

一、子供〜何見て喜ぶ汽車の通るの見て喜ぶ、

二、………犬の居るのを、………

………花の咲いたの、………

(四) (譜、ちら〜ほろ〜)

一、上にも下にもちら〜ほろ〜降り来る雪は

蝶々が花ちら／＼ほろ／＼雪は降るなりちら

／＼ほろ／＼雪は降る、

二、やよ此雪の積れるお庭は皆さんと雪抜けの遊びをしましょう、

ちら／＼ほろ／＼……………

三、あ、此雪をかためてころがして大きなだるまをこしらへましょう

ちら／＼ほろ／＼……………

(五) (譜、蝶々)

一、蝶よ／＼何を見て喜ぶいもむしのゐるのを見  
てよろこぶ、大勢で引ばつておうちへ歸りま  
しようエンヤラサー／＼エンヤラエンヤラエ  
ンヤラサ、

二、子供／＼何を見てよろこぶオームのゐるの  
を見てよろこぶおとつさんおつかさんおことさ  
んお竹さんコケコッコ／＼ニヤラ／＼／＼ニ  
ヤラ／＼／＼／＼

三、……………猫のゐるのを……………

ニヤラ／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼

ヤラ／＼／＼／＼……………

四、子供／＼……………汽車の通るの見て喜ぶト  
ン

ネルぬけて鐵橋を渡つてシユツ／＼／＼／＼／  
ポツポツポツポツポツポツポ、

(六) (譜、とんぼやとんぼ)

一、人形や／＼紅葉の組の花子さん藤の組の藤子  
さんブランコが面白くつてこぎつくらを致し  
ましょう、立乗りはあぶない、お腰をかけて  
おのんなさいうしろから押ししましょう、

二、子供や／＼紅葉の組の男の兒、藤の組の男の  
兒、遊ぶのが面白くて兵隊ゴッコを致しまし  
よ日なたはあついで日かげで遊ぶ、すきをもつ  
て遊びましょう。

三、子供や／＼紅葉の組の女の兒藤の組の女の兒  
遊ぶのが面白くておま／＼ことを致しましょう  
日なたはあついで日かげで遊ぶ、お砂糖をす  
りましょう。

四、皆さんいらつしやい藤の粗の皆さん紅葉の組

の皆さん櫻の組の皆さんもこちらへいらつしやい、梅の組でこちらへたおしいものを御馳走致しましょう、

五、皆さんいらつしやい専修科の皆さん本校の先生こちらへお腰を掛けてお豆いりを召し上げ

お豆いりを召し上つたら、おひな様を御覧遊ばせ、御案内を致しましょう、

六、皆さん〜藤の組の皆さん紅葉の組の皆さんお學校へお出になつたら御勉強を遊ばせお休

の時はお遊に入らつしやい御いつしよに遊びましょう、

(七) (譜、お池の蛙)

一、幼稚園の鶏はコッココッココッコお米がほしいと  
てコッココッココッコ、

二、………ひよこはピョ〜〜〜〜菜の

葉がほしいとてジョ〜〜〜〜

三、梅の組のカナリヤはピー〜〜〜〜菜

の……………

四、梅の組のカナリヤはたまごを生みました、今

にはれて子供が出て来ます、

五、櫻の組のナ姉妹はピー〜〜〜〜栗と

水がほしいとて……………

六、紅葉の組の文鳥はピー〜〜〜〜お友達か……………

七、藤の組の山雀はコッココッココッコをのみをつゝいてコッココッココッコ

八、幼稚園の七面鳥はカオ〜〜〜〜赤くなつたり青くなつたり、のびたりちいんだり、

(八) (譜、ひばりはうたひ)

藤の組の藤子さん櫻の組の櫻子さん

梅の組の梅子さんもよくいらしやいました

おねへさまも御いつしよにおにいますまも御いつしよに

よに

をばさまがたもおとほりあそばせ

けふは花子のお誕生日のお祝ひのいろ〜のもの

を澤山めしあがれ

(九) (むすんで開いての譜)

皆さんいらつしやい御馳走を致しましよ

皆さんでこしらへたお豆いりを御馳走に

皆さんいらつしやい御案内をいたしましよ

(十) (鯉幟)

一、大きな紫の親鯉と樺と赤の鯉の子が二つ

て登つて行く海の様な青空に、

(十一) (勇敢なる水兵の譜)

虫に負けない大勝利毎日にこくくく

どんなにいやな日もがまんして虫に負けない大勝

利万歳く万々歳、虫に負けない大勝利

虫にまけない大勝利万歳万歳万々歳

貧ふして悲みなきは難く、  
富みて驕ることなきは易し。

(論語)

○子供のあそび

坂本小學校附屬幼稚園

左記の種類は日々幼児の遊戯する者の一班を集めたる者にして中には禁止せる者をも含む

男兒の遊

一、電車ごっこ

一列となり先頭の者は運轉手となりハンドルを持つ真似をなし最後の者は車掌にしてチンくの合圖と共に電車は行進す程なくチンと打つ時は運轉手はハンドルをまわし運轉を止む此時客の二三は上下する遊なり

二、汽車ごっこ

二人づゝ片手を繋ぎて二三ヶ所に陸道を設け汽車は一列となり先頭者の汽笛の音と共に進行す

三、兵隊ごっこ

喇叭を吹き姿勢を正し列を揃へて行進す

四、戰爭ごつこ

源兵に分れて戦争し討たれし者は再び戦ふ事能はざる遊なり

五、おかめちやらちやら巻

多人數にて手を繋ぎ人を圍む遊なり

六、徒競走

豫め區域を定め置き競走す

七、お車がらく

二名にて手を組み一人を手上に載せお車がらくらと云ひつゝ歩行す

八、落しあひ

二名づゝ圓木に乗り左右より出て手を打ち落しあふ遊

九、毬投げ

二組に分れ一方より毬を投げ他方の者之を受く若し中途におとしたる者は順次他の者出でゝ之に代る

一、御輿遊

御輿遊

主に鎮守祭日の當坐になす遊にして二人つゝ手を組み撒を撤ておくれ……と云ひつゝ騒ぎ遊ふなり

一、柱とり

一名づゝ柱を定め置き一人の鬼は一二三と云ひつゝ柱に寄る他の者は一二三の合圖と共に己が位置を變更す若し遅れて來る者又は元の柱に居る者は直ちに中央に出で一二三の合圖をなしつゝ柱を取るなり

二、人取り

二組に分れ兩組の大將出て合戦の合圖と共に一同出て戦ひ討たれし者は敵の仲間となり残り一人となりて勝負を定む

女兒の遊

一、伯母さんごつこ

まゝごと遊に類し二三ヶ所に團體をつくり家族の者を定め他家を訪問する遊にして木の葉、色



紙等を以て土産物となし居れり

二、籠目

圓形となり籠をつくり中に鳥を二三羽入れ周圍の者は籠目の歌を唱ひつゝ、行進し唱歌の終ると共に鳥は飛翔しつゝ、周圍の者にとまる、

三、いもむしころく

一列となり前者の帯につかまりいもむしころく、瓢箪ぼつくりこと唱ひつゝ、蹲踞するなり

四、餅焼遊

庭園の中央放水場なる孔上に木の葉を載せて餅を焼く遊なりと稱し居れり

五、子取り

二組に分れ兩組の親出でジャンケンして子を取る遊

六、坊さんく

圓形をつくり中に一人僧を入れ左の歌を唱ひつゝ、後ろの者の名をあて交代する遊

幼坊さんく何處へ行くの

幼わたしは田舎に親類に

幼わたしも一所に参りませう

幼お前が来ると邪魔になる

幼後の正面誰?

七、猫買ひ

猫を賣る人ありて多くの猫を持つ一人の買手來りて猫を買ひ家に連れ行き買物に出掛る留守に猫は逃げ去るを見止めて之を捕へ次に買手となし漸次猫の數の減する遊なり

男女共遊

一、學校ごっこ

一名は教師他は皆生徒となり教師の命するがまゝに引率され課業として遊戲唱歌をなす

二、しやがみ鬼

普通の鬼事にして唯おかの代に蹲まる點に於て異なるのみ、蹲踞せる時は鬼は決して捕ふる事能はず

三 たゝき鬼

圓形をつくり一名鬼となり圓周の者の脊を打ちて圓外を一周す打たれし者は手を放ち鬼と反對の方にまわりて競走し早く圓に入りたる者を勝とす

四、圓木渡り

圓木の上を手放しにて往來す

五、うしろの正面

圓形となり一名は中に在りて眠る、周圍の者は唱歌しつゝ行進すうしろの者は唱歌の終ると共に後ろの正面誰々と云ひ聲により名を宛る遊

六、本所のおひてきぼり

一名の盲を他人數にて或隅に連れ行きもう宜しと云ひつゝ逃げ歸る盲は直ちに目を開き逃るゝ者を捕ふ

斯くして捕へられたる者は盲となりて連れ行か

るゝなり

七、子を捕ふく

一列となり前者の帯につかまり鬼は最後の者を捕ふる遊にして先頭の者は親となり兩手を擴げて之を防ぐ

八、飛つこ

ジャンケンして勝つ毎に一歩づゝ進む遊

學ばざることあり、之を學びて能くせざれば措かず。問はざることあり、之を問ひて知らざれば措かず。思はざることあり、之を思ひて得ざれば措かず。辨へざることあり、之を辨へて明ならざれば措かず。行はざることあり、之を行ふて篤からざれば措かず。人一人たび之を能くすれば、己れ之を百たびし。人十たび之を能くすれば、己れ之を千たびす。果して、此道能くすれば愚なりと雖も明に、柔なりと雖も必らず強し。(中庸)

## ○我園の特色

静岡幼稚園 宇式かん氏談

一、私の園で實行致して居ることで特に申上げた  
いと思ひますのは、毎日食後に必ず口を嗽がせる  
ことであります。一體齒の養生は特に幼兒にとつ  
て大切なことであると氣付いたから、何うかして  
食後には必ず口を嗽がせたいと思つては居りまし  
たが、中々之を實行するのが面到了した。併し、  
是は何うしても實行しなければならぬことと思つ  
て五年程前から斷然行らせることに致しました。  
行つて見ると初めの程は一寸面倒な様な氣もしま  
したが、直ぐに慣れて其後は少しく、おつくうに  
思ふ様なことがなく行ひ續けて居ります。其方法は  
辨當のあとで直に其茶碗を以て保育室の隅の方で  
別に備へ付けたバケツに温湯でうがひをさせるの  
で、至つて簡單なものです。之を實行して以來、  
子供の齒痛を訴へるものが殆んどない様になりま

した。今では父兄なども大層喜んで居るそうで御  
座います。子供の虫齒などもそれが爲め、大層減  
つた様に存じます。

二、次に私の園の特色は子供が大層亂暴なこと  
であります。小さい組などはそうでもありませんが  
五つ六つとなりますと、まあ其亂暴など、逆も御  
話しにはなりません。色々心配して、だました  
り、すかしたり、或は静かな遊戯を教へたり、考  
へることの多い手細工や遊びごとをさせたりしま  
すけれども、一生懸命骨を折つて居る間だけ、僅  
に静かにして居るだけで、後はもう喧嘩亂暴、實  
に、烈しいものです。何うしたらば此噪がしい性  
質を静めることが出来るものかと常に心配して居  
るのであります。何かよい御考へが御座いますな  
らば伺ひたいものであります。

三、次に私の園の特色とも申す可きは園の位置が  
兵營の直ぐ前にありますので、一體に子供の姿勢  
を直ほすのに誠に都合よいことであります。前に

居んで居るものなどがあるときには、直ぐに、誰  
 さんは兵隊にまけますねと得ふと、直ぐに、直立  
 不動の姿勢になります。其せいか子供の姿勢は常  
 に眞直で誠によいと思つて居ります。

四、私の園には小さい子を慣らすのに特別の技量  
 を持った助手が一人居ります。何んなにひどく泣  
 いて居る様な子供でも此人に遇ふと直に慣れ親ん  
 で仕舞ふことは實に不思議な位で御座います。そ  
 れで今では何時も一番小さい、入り立ての子供を  
 のみ常に受持つて慣らして居ります。一體私の  
 園では新に入れます子供は一時に入ませんで、何  
 時も三度に切つて入て居ります。其間は一ヶ月位  
 離して一度に廿五人位きり入ません、斯様にして  
 居と子供を慣らすのに餘程便利の様であります。

五、一體に私の園では子供を保育するのには成る  
 べく子供の自然性に反らぬ様、之を利用すること  
 に努めて居ります。斯様にして居れば子供に決し  
 て無理強いをする心配もなく、従つて子供を損ふ  
 恐れもないことと思ひます。先きの助手などもこ

この道理を呑み込んで之を巧みに實行したのであ  
 ります。私が斯る信念を持つ様になりましたに就  
 いては一つのお話が御座います。實に數年前私  
 は或朝例の如く幼稚園に出勤しやうと思つて参り  
 ますと城のお塚に釣をして居る人が今しも大きな  
 鯉を釣り上げ掛けた所で、人と鯉と負けるか勝つ  
 かの瀬戸際で、あたりは見物人の黒山で御座いま  
 した。其時其釣り人は巧みに鯉を繰つて、鯉が向  
 ふに逃げ様とすれば糸のあり次第、竿の續き次第  
 伸ばして遣つて、鯉が疲れた頃を見ては自分の方  
 に引き寄せる様にして居て、水面をあらへ行つ  
 たり、此方に來たりして居りましたが、遂に仕舞  
 に、之を釣り上げて仕舞しました。私は此時に大に  
 感じました。全く活きた人間を扱ふのも此心持で  
 行らなければならぬ。一概に此方の思ふ様にしよ  
 うとすれば却つて失敗するものであると氣付いて  
 からは、新に保母たらんとする人を指導する毎に  
 何時も此話をして幼児取扱の秘訣を知らせる様に  
 して居ります。詰らぬことを申し上げましたが私  
 の園の様子は右様申上る様なことで御座います。

拜啓今般左記要項により講義會開催仕候に付奮つて御聽講被成下度此段御案内申上候

一學科 グロース氏遊戯論

一講師 文學士 倉橋惣三氏

一期日 五月十日より毎週水曜日午後三時より五時迄十回完結

一會場 東京女子高等師範學校附屬幼稚園

一聽講料 金壹圓也

一申込 は會場内フレール會研究部宛

以上

明治四十四年五月

フレール會

粉末の微妙芳香の馥郁眞に  
是れ衛生經濟兼備の逸品

丹波博士  
方劑 はら齒磨 本舖 東光園

本品の大袋入は家庭用として徳用なり  
鏡付罐入は旅行携帶に便なり



標商録登  
**MORIMYO**  
 守妙  
 守田  
 振

最も光榮ある歴史を有する  
**風邪血の道薬**

●油斷大敵、風邪は萬病の本風邪たんせき婦人

血の道逆上腰冷寒さ暑さあたり、頭痛、めま

ひ、氣のふさぐには守妙に限る

●模偽物多し御求の節は必ず守妙即ち守田妙振

り出しと御名指を乞ふ

定 價  
 一帖 入 金 拾 五 錢  
 二帖 入 金 廿 五 錢  
 六帖 入 金 五 十 錢  
 十二帖 入 金 五 十 錢

東京上野池之端仲町廿七番地

寶丹 本舖 守田 治兵衛

●全國各藥店にて販賣す

東京九段中坂上  
フ レー ベ ル 館

營業課目

幼稚園用恩物	幼稚園用材料	幼稚園用机腰掛	幼稚園用運動具	幼稚園用遊戲具	幼稚園用繪畫類	幼稚園用玩具類	幼稚園用書籍類	幼稚園用諸表簿類	家庭教育資料	學校用品類
--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	--------	-------

御一報次第定價表進呈

◎新案シーソー 定價 四圓五十錢  
送費 遠近によりて異なる

室内或は室外に持運びの出来る最も輕便なるシーソーにして向ひ合つて腰を掛け自然に上下す市内多くの幼稚園に試みて好評噴々全部鋼鐵製螺旋止め

◎まはり人形

定價 四十錢  
送費 十二錢

一、製法、木製の盆形に十三ヶの凹所と八ヶの半環を付したる盤一ヶとセルロイド製にして斜面を轉る面白き人形一ヶよりなる

一、使用法 凹所に人形を沿らしめずして順次半環に人形を掛らしむるを目的とす

一、教育的價值

手指の練習と視覺の調節とを旨としたる練習的玩具にして併せて沈着努力の氣風を養ふ保存、興味、教育的價值の上に於て幼稚園には最も適したる玩具たるを信す

明治四十四年五月一日印刷  
昭和四十四年五月五日發行

編輯者 東京市小石川區竹早町三四  
發行所 東京市本區區番場町四番地

電話番町二九〇九  
機替口座東京一九六四〇

東京市本區區元町二丁目六十六番地  
發行所 フレーベル館